

# やさい週間情報(第43号)

平成30年 2月 9日 (金)

全農あおもり やさい花き課

品名 ながいも No. 1

事務所	主力産地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産	A 4 L	3,400~3,200	3,400~3,200	-	1本売り (2L・L) 398~298円	北海道、本県産ともに入荷量は少ないものの、秋冬野菜全般の高値推移の影響もあり全体的に荷動きが鈍い状況が続いている。流通状況を考慮し価格を下げたことや入荷量が落ち着いてきていることから、幾分動きはみられるものの、依然として売り場面積狭く、売価も高めでの設定となっており引き続き厳しい販売状況となっている。
		A 3 L	3,400~3,200	3,400~3,200			
		A 2 L	3,400~3,200	3,400~3,200			
		A L	3,400~3,200	3,400~3,200			
		A M	3,200~	3,200~			
		B 4 L	3,200~3,000	3,200~3,000			
		B 3 L	3,200~3,000	3,200~3,000			
		B 2 L	3,200~3,000	3,200~3,000			
		B L	3,200~3,000	3,200~3,000			
		B M	3,000~	3,000~			
		C 2 L	2,800~	2,800~			
		C L	2,600~	2,600~			
名古屋	本県産 北海道産	A 4 L	3,500~	3,500~	-	1本売り 398~298円	本県産および北海道産中心の販売となっている。葉物を中心に高値基調が続いている品目が多いことや気温の低さからながいもの末端消費は鈍くなっている。比率の低いL以下については保合いとなっているものの、2L以上については潤沢な入荷が続いており、弱含みでの販売となった。
		A 3 L	3,500~	3,500~			
		A 2 L	3,500~	3,500~			
		A L	3,500~	3,500~			
		A M	3,200~	3,200~			
		B 4 L	3,300~	3,300~			
		B 3 L	3,300~	3,300~			
		B 2 L	3,300~	3,300~			
		B L	3,300~	3,300~			
		B M	3,000~	3,000~			
		C 2 L	3,000~	3,000~			
		C L	2,600~	2,600~			
							旧正月を控え、来週以降、国内流通量が一時的に増加する事が見込まれ厳しい販売が続く見込みから、都内量販店で販促活動を積極的に行い、食べ方の提案や売り場の拡張および荷動きの良化に努める。
							今後についても、厳寒期を迎え消費が鈍い状況が続く見込みではあるものの、今週末から試食宣伝会も予定されていることから、需要の喚起を図りながら荷動きの良化に努める。

品名 ながいも No.2

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
大阪	本県産 北海道産	A4L A3L A2L A L B4L B3L B2L B L C2L C L	3,400~3,200 3,400~3,200 3,400~3,200 3,400~3,200 3,200~3,000 3,200~3,000 3,200~3,000 3,200~3,000 2,800~2,600 2,600~2,400	3,400~3,200 3,400~3,200 3,400~3,200 3,400~3,200 3,200~3,000 3,200~3,000 3,200~3,000 3,200~3,000 2,800~2,600 2,600~2,400		カット 78~48円/100g	北海道産および本県産の販売。 量販店ではM以下を1本売りする動きがあるものの、販売の中心はカット売りで、引続き積極的な売込みがかけられている。しかし、寒波の影響から末端消費は鈍っており、注文はそれほど多くない状況となっている。また、安価な転送品の出回りが増えており、それに伴って流通在庫も増えたため、直荷の荷動きは鈍くなってきている。 来週についても、気温の低い日が続く予報であることと、流通在庫の多さから、価格は弱気配で推移する見込み。
九州	本県産	A4L A3L A2L A L B4L B3L B2L B L C2L	3,500~3,400 3,500~3,400 3,400~3,300 3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,000~2,800 2,800~2,600	3,500~3,400 3,500~3,400 3,400~3,300 3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,000~2,800 2,800~2,600		カット 100g 78~58円	やさい全般に売価高で特売が組める品目が少ない中、ながいもは消費宣伝も始まっており、特売も組まれている。 量販店によっては、売価の下げが見られ始めているが、売り場面積の拡張までには至っていない。 しかし、売り場は豆類を中心に徐々に春商材も見られ始めており、今月末まで消費宣伝を実施し、消費の喚起と価格の維持につなげていく。
東北	本県産 北海道産	A4L A3L A2L A L B4L B3L B2L B L C2L C L	3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,000~ 3,000~ 3,000~ 3,000~ 2,800~ 2,500~	3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,300~3,200 3,000~ 3,000~ 3,000~ 3,000~ 2,800~ 2,500~	なし		本県産中心の販売。 引続き本県産の入荷量は変わっていない中、量販店の売価も変わらず、特売等の大きな動きも少ないことから市況は、保合推移。 来週についても、入荷量は極端な増量とはならず市況は保合で推移する見通し。

## 品名 にんにくNo.1

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産	A 2 L A L A M	2,200~2,000 1,800~1,700 1,500~1,400	2,000~ 1,800~1,700 1,500~1,400	—	L 1 P 298~258 円 M 1 P 198~178 円 中国産 3 P 100 円 スペイン産 1 P 158~98 円	<p>入荷量は徐々に増えており、2L、M級の荷動きが悪く相場はこれまでより1段下げたの販売となっている。L級については、比較的荷動きは良いものの出回り量が増えていることもあり徐々に荷動きは鈍化しつつある。</p> <p>これまで入荷量は増えきらず安定していたことから保合いで推移してきたが、一気に流通在庫も増えてきている。産地パック品についても通常品との価格差が大きく厳しい販売になりつつある。</p> <p>今後は、ながいもと合わせた宣伝会を実施するとともに、流通状況を考慮しながら適正な価格設定を行い、荷動きの良化および消費拡大に努める。</p>
名古屋	本県産	A 2 L A L A M B 2 L B L B M	2,200~ 1,800~ 1,600~ 2,000~ 1,700~ 1,500~	2,200~ 1,800~ 1,600~ 2,000~ 1,700~ 1,500~		L 1 P 298~198 円	<p>本県産中心の販売となっている。</p> <p>管内への入荷は微増傾向となっているが、末端での売価高や野菜全般の高値傾向から荷動きは鈍く、流通在庫を抱えながらの販売となっている。各等階級とも全般に弱含みでの推移となった。</p> <p>来週についても、入荷量は大きく変わらない見込みとなっており、市場・仲卸段階で在庫を抱えながらの販売が続く予想から弱めの販売が見込まれる。</p>
大阪	本県産	A 2 L A L A M	2,200~2,000 1,800~1,700 1,700~1,500	2,200~2,000 1,800~1,700 1,700~1,500		L 1 P 298 円 M 1 P 198 円	<p>本県産中心の販売。</p> <p>管内への入荷量は大きく変わっていないが、転送品の出回りは増えてきており、総体量は増加している。また、量販店では、流通在庫が多く、価格を抑えられるM級の売り場が広がっているが、他品目の高値の影響から荷動きは鈍く、全体的に弱含みでの販売となった。</p> <p>来週については、販売環境に大きな変化は見られないものの、入荷量は横ばいとなることから、保合での販売となる見込み。</p>
九州	本県産	A 2 L A L A M	2,200~2,000 2,000~1,800 1,600~1,400	2,200~2,000 2,000~1,800 1,600~1,400			<p>やさい全般に荷動きが鈍い中、にんにくもL級を中心に荷動きが鈍く、価格を若干下げて流通在庫を増やさないようにしているが、安価な転送案内も増えており、弱めの販売が続いている。</p> <p>今後も荷動きが鈍い状態で推移する見込みではあるが、今月から始まっているながいもの消費宣伝と合わせて、消費の喚起・価格の維持を図る。</p>

品名 にんにく No.2

東北	本県産	A 2 L A L A M	2,300~2,200 1,800~ 1,600~	2,200~2,100 1,800~1,700 1,600~1,500	なし	L 1 P 198円	<p>2月に入り入荷量は徐々に増加してきている。また、県内地場市場への個選の持ち込みも増加していることから、市況は全体的に弱含み推移となっている。また、2L級については、他階級と比べ価格面で割高感がでてきており、引合いはL・M級へ移ってきている。</p> <p>来週についても、本県産の出荷量が増加となることから、市況は弱含み推移の見込み。</p>
----	-----	---------------------	---------------------------------	---	----	---------------	--

品名 ごぼう No.1

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産 茨城県産	本県産 (10K) A 2 L A L A M  (4K) A 2 L A L A M	1,500~1,400 2,000~1,800 2,000~  600~ 500 800~ 900~	1,500~1,400 1,800~ 2,000~  500~ 800~ 900~		L 1 本 128~198円	<p>本県産中心に茨城県産の販売となっている。</p> <p>今月に入り入荷の少ない状況が続いていることや、天候不順から九州産の新ごぼうの入荷も不安定となっていることからL、M級を中心に引き合いが強まっており、先週から一段上げての推移となっている。</p> <p>引き続き各産地入荷の不安定な状況が続くことから、L、Mを中心に強めの相場展開が予想される。</p>
名古屋	本県産 九州産	A M A 2 M A S A 2 S	2,300~2,200 2,600~2,500 1,800~1,600 1,300~1,100	2,300~2,200 2,600~2,500 1,800~1,600 1,300~1,100		2 M 2 本入 198~158円	<p>本県産・九州産（新ごぼう）中心の販売となっている。</p> <p>入荷の不安定さから売場は広がっていないものの、各青果会社とも不足感が高まっており、細物については上げ基調での販売となり、太物についても強含みでの推移となった。</p> <p>九州産新ごぼうについては、今月末にかけて増量する見込みとなっているものの、本県産の売場は確保されており、定番で使う2Mを中心に安定した販売が見込まれる。</p>

品名 ご ぼ う No. 2

事務所	主力産地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
大阪	本県産 関東産 九州産	A 3 L A 2 L A L A M A 2 M A S A 2 S	1,300~1,000 1,600~1,400 2,200~2,000 2,500~2,300 2,600~2,500 1,900~1,800 1,400~1,300	1,300~1,000 1,600~1,400 2,200~2,000 2,500~2,300 2,600~2,500 1,900~1,800 1,400~1,300		2 Mハーフ 158~138 円/ P  S 2 P 198 円/P	本県産・関東産と九州産（新ごぼう）の販売。 本県産・関東産とも入荷の中心はL・Mとなっており、以前に比べて太物が入荷割合が低くなったことから業務需要での引合いが強まり、価格は強含みとなった。また、その他の階級については、比較的安定した販売が続いており、保合での販売となっている。 来週についても、引き続き、量販店向けのM・2Mを中心に引合いは強いと想定され、全体的には保合推移となる見込み。
九州	本県産	A 2 L A L A M	1,700~1,500 2,200~2,000 2,500~2,300	1,700~1,500 2,200~2,000 2,500~2,300		2 P 198 円~158 円	鹿児島県離島物および九州産地は、寒波の影響により太物が少ない入荷状況となっている。 加工・業務関係は、九州産地の太物が少ないことから本県産への発注が多い。 一方、量販店においては青果物全般の売価高の影響により荷動きが鈍い中、ごぼうの売り場は狭まっていないものの、発注量は少ない。 今後も本県産は一定の入荷量となる見込みで、3L・2L級を含め全般に保合いでの価格帯で推移する見込み。
東北	本県産	4 k g A 3 L A 2 L A L A M	400~ 600~ 800~700 1,000~900	400~ 600~ 800~700 1,000~900			本県産中心に一部九州産の洗いごぼうの販売。 本県産中心の販売となる中、入荷量は変わらず少ない状況が続いている。入荷量が少ない中ではあるが、末端の荷動きは、やや鈍めで推移していることから、市況は保合推移。 来週についても、入荷量の増加は無いことから、市況は保合推移の見込み。